

HVS証券

エイチ・エス証券株式会社

お客様情報



エイチ・エス証券株式会社

● 所在地
〒163-6027
東京都新宿区西新宿6-8-1
住友不動産新宿オクタワ 27 階
<http://www.hs-sec.co.jp/>

エイチ・エス証券株式会社は、旧エイチ・エス証券株式会社が持株会社である澤田ホールディングス株式会社に社名変更した2007年に新設。「お客様を大切に、お客様から信頼され、社会に貢献できる会社を目指す」という理念を掲げながら質の高いサービスを提供し、総合証券会社として社会の健全な発展に寄与しています。

パートナー情報



株式会社トレードワークス

● 所在地
〒102-0082
東京都千代田区一番町4-6 一番町中央ビル

株式会社トレードワークスは、証券、FX、CXの業界を対象としたITソリューション・プロバイダーとして1999年に設立。「正確に」「早く」「便利に」動くシステムを高水準の技術で提供し、顧客のビジネスをシステム面からサポートしています。

エイチ・エス証券株式会社

投資情報収集システムとIBMクラウド・データセンターをDirect Link Colocationで接続することで、構内配線と同等の帯域保証とセキュリティを実現

エイチ・エス証券株式会社（以下、エイチ・エス証券）では、インターネット取引の顧客を対象とした投資情報ツールを刷新し、株式会社トレードワークス（以下、トレードワークス）の製品である証券・FX・CX オンライントレードシステム「Trade Agent」を導入。Trade AgentはSaaS型サービスとして提供され、クラウド基盤にはIBM Bluemix Infrastructure（以下、Bluemix Infrastructure）が採用されました。トレードワークスが運用する投資情報収集システムが稼働するデータセンターとBluemix Infrastructure環境とはDirect Link Colocationで接続され、大量の相場データをスムーズに扱うための高いパフォーマンスが実現しています。

インターネット取引の顧客に提供する情報系ツールの刷新を検討

エイチ・エス証券は、旧エイチ・エス証券株式会社が持株会社である澤田ホールディングス株式会社に社名変更した2007年に新設。「お客様を大切に、お客様から信頼され、社会に貢献できる会社を目指す」という理念を掲げながら質の高いサービスを提供し、総合証券会社として社会の健全な発展に寄与しています。

エイチ・エス証券 執行役員 業務部長 岡和田 裕治氏は、同社のビジネス概要について以下のように説明します。

「エイチ・エス証券は、営業店取引、コールセンター取引、インターネット取引のチャネルに加え、これら3つのチャネルすべてで取引が可能なオールアクセスというチャネルも用意することでお客様の利便性を追求しています。そして取扱商品としては国内の株式はもちろんのこと、海外の株式、債券にも力を入れています」

証券会社のビジネスには各種ITシステムを欠かすことができませんが、エイチ・エス証券では共同利用型ASPサービスを活用することで、コストを削減しながら効率的なシステム運用を実現しています。その運用状況について、エイチ・エス証券 オンライン営業部 オンライントレード課長 兼 デリバティブトレード課長 林 雅之氏は次のように語ります。「証券会社のITシステムでは差別化要因とはならない各社共通で利用可能な部分があり、その仕組みはベンダーからASPとして提供されています。エイチ・エス証券では、そうしたサービスを活用して運用コストの最適化を図りつつ、各種証券サービスを提供するアプリケーションなどの差別化要因となる部分については独自の仕組みを構築しています」そうした差別化要因の1つとなっているのがモバイル・ツールの提供です。エイチ・エス証券 業務部 部長 兼 システム課長 十文字 一智氏は、そのツールの中核を担うものとして「スマ株」を挙げます。

「モバイルといえばエイチ・エス証券というほど、モバイルを活用したサービス提供には力を入れてきました。最初は携帯電話向けに提供していましたが、その後スマートフォン向けのツールとしてスマ株というアプリを配信しています」

スマ株は外出先でも簡単に株式の取引ができるエイチ・エス証券オリジナルのスマートフォン向けアプリです。同社ではインターネット取引チャネルのツール開発をこのスマ株を軸に展開し、PC向けの「スマ株 for PC」、タブレット向けの「スマ株 for Tablet」なども提供していました。さらに顧客への情報提供ツールとしては、金融系の情報ベンダーが提供するサービスも活用していました。エイチ・エス証券ではこうしたツールを複合的



事例概要

【課題】

- 情報ベンダーが提供するツールがカスタマイズ困難で、他社との差別化を図ることができず、取引系ツールとの連携もできなかった。
- 新しい投資情報系基盤システムが高いパフォーマンスを維持できるクラウド環境が必要だった。

【ソリューション】

- Trade Agentを採用することで独自のツールを開発し、情報系と取引系ツール間での連携も実現。
- Trade Agentの稼働環境としてIBM Bluemix Infrastructureを採用し、Direct Link Colocationで投資情報収集システムと接続することにより構内配線とほぼ同等の帯域保証とセキュリティーを実現。

【メリット】

- より使いやすいツールの開発が実現。
- スマートフォン向けのアプリでも高いパフォーマンスを発揮。
- 多彩なツールを開発したことで新たな顧客層の開拓が可能に。
- 実績あるシステム構築技法をクラウド環境でも適用し、コストを抑えたスピード感のあるシステム開発が可能に。

に提供していましたが、これらの取引ツールはさまざまな課題を抱えていました。その課題について、エイチ・エス証券 オンライン営業部 オンライントレード課 課長代理 三根 正大氏は説明します。

「情報ベンダーのサービスは、あらかじめ用意されたアプリケーションをそのまま活用する形だったので、画面をカスタマイズしてほかの証券会社との差別化を図ることができない上、取引系のツールとの連動にも制約がありました。さらに利用コストがかさむこともネックになっていました」

例えば顧客が頻繁にアクセスする銘柄を登録する機能を活用する場合、情報ベンダーのツールとスマ株の双方で同じような操作を繰り返す必要があり、閲覧した情報を基に株式の取引を実行する場合でも2つのツールを個別に使い分けなければなりませんでした。

投資情報ツールの稼働基盤にIBM Bluemix Infrastructureを採用

投資情報ツールに関する課題を解決するため、エイチ・エス証券ではツールの刷新についての本格的な検討を2015年5月から開始し、複数のベンダーから提案を受けました。そして比較検討の結果、トレードワークスが提案したTrade Agentの採用が決定。Trade Agentについて、トレードワークス サービスエンジニアリング部 スペシャリストグループ 取締役統括本部長 徳島 直哉氏は説明します。

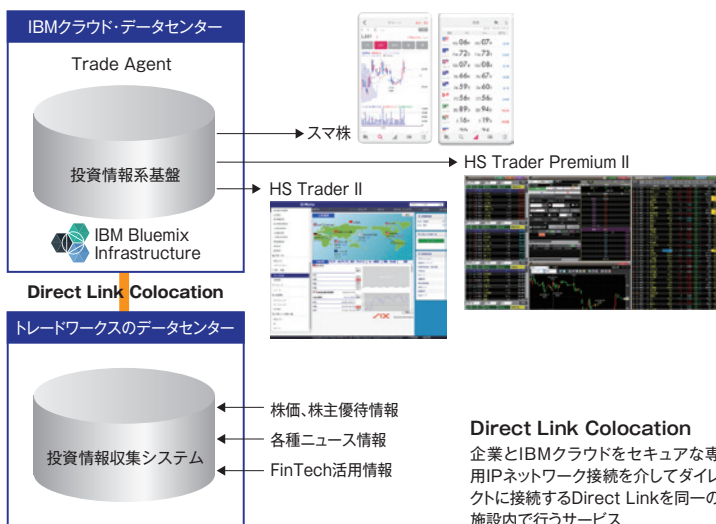
「Trade Agentには大きな2つの特長があります。1つは独自開発のプラットフォームを利用することで証券サービスの特徴である高トラフィック、高信頼性などに対応した優れたパフォーマンスを発揮できるという点です。もう1つの特長は、オープンなイノベーションを実現できるという点になります。株価、ニュース、株主優待、四季報などさまざまな情報ソースからお客様が望まれるもののみを選択してクラウド上の投資情報系基盤に取り込むことができ、画面のレイアウトも使いやすいようにカスタマイズ可能です。さらに取引系のシステムとも柔軟に連携できます。また収集可能な情報としては、株価、株主優待、ニュースなどの標準的な情報だけではなく、新進のベンダーが提供するFinTechを活用した情報も活用できます」

Trade Agentは長年の実績を積み重ねているシステムですが、提供開始以来オンプレミスでの設置を基本としていました。しかし、より素早く簡単に利用できるように配慮するため、クラウド環境から提供する新たなサービスを準備していました。エイチ・エス証券にはクラウド・サービスとして提案され、並行して運用基盤となるクラウド・サービスの選定を進めていました。結果としてBluemix Infrastructureの採用が決定。その評価ポイントについて

トレードワークス システム開発部 クラウドサービス 基盤技術チーフエンジニア 二宮 慎氏は次のように説明します。

「幾つかのパブリック・クラウドを検討しましたが、ほかのサービスは仮想化された環境を複数のユーザーが共同利用する形態なので、安定したリソース活用が期待できません。株式のデータ配信は秒単位で投資成績に影響を与えるものなので、インフラが安定したパフォーマンスを発揮できることが重要になります。Bluemix Infrastructureはベアメタル・サーバー（物理サーバー）を活用できるので、ほかのユーザーから影響を受けることなく安定したパフォーマンスが維持されるという点に着目しました。また株価のデータは膨大な量に上がりますが、これを数千、数万人の投資家様に遅滞なく配信する必要があります。そのため最終的な広域配信システムの強化も必要ですが、それ以前に投資情報収集システムが稼働する当社のシステムとクラウド環境を結ぶネットワークがボトルネックにならないことが求められます。Bluemix Infrastructureで

■ 投資情報収集システムとIBM Bluemix Infrastructureの環境をDirect Link Colocationで接続



“豊富な機能やFinTechなどの新しい技術の利便性を的確にお客様にお伝えし、実感していただけるかが重要です。そして本当にお客様に満足していただけるサービスの提供を目指していきたいと考えています。”



エイチ・エス証券株式会社
執行役員
業務部長

岡和田 裕治 氏

“HS Trader Premium IIは無料で配布されている点が喜ばれているのでしょうか。またスマ株についてもパフォーマンス面でも改善されていますので、より使いやすくなっていると思います。”



エイチ・エス証券株式会社
オンライン営業部
オンライントレード課長
兼 デリバティブトレード課長

林 雅之 氏

“スマートフォン向けのスマ株では取引の種類も増え、従来の現物取引と信用取引の2種類に加え、新たに先物取引とオプション取引にも対応するようになりました。”



エイチ・エス証券株式会社
業務部 部長
兼 システム課長

十文字 一智 氏

あれば、Direct Link Colocationで接続することにより構内配線と同等に帯域保証でできるため、低遅延で通信することが可能になります」

また、Bluemix Infrastructureのネットワークでは、UDP (User Datagram Protocol) 配信が可能となっており、将来的に転送量が増えた場合でも効率的に配信する基盤が整っていることも大きな評価ポイントとなっています。

トレードワークスのデータセンターではFailover Clusterやロードバランサーなどの従来から実績のある仕組みが採用されていますが、一般的なクラウド・サービスではそれらの仕組みをそのままでは利用できないため、連携して稼働させることが困難になります。Bluemix Infrastructureではこうした技術にも対応可能なことから、既存の仕組みをクラウドに合わせて再構築することなくそのまま連携を図ることができます。

各社から提案を受けたエイチ・エス証券は、投資情報系基盤システムの構築期間やコストを評価してTrade Agentの導入を決定しました。

「情報ベンダーからも弊社の要望に合わせてシステムを改修する提案を受けましたが、どうしても開発が長期にわたりコストもかさんでしまいます。Trade Agentはもともとカスタマイズを前提としたオープンな仕組みになっているので短期間で構築でき、コストも低く抑えられます。情報ベンダーは海外の情報など独自の情報を提供できる点が強みなのですが、Trade Agentであれば必要な情報は後からでも追加できるので、まずはTrade Agentで基本的な仕組みを整えるということにしました」(三根氏)。

投資情報ツールが刷新されたことで新たなユーザー層の開拓を期待

Trade Agentを活用したエイチ・エス証券の新しい投資情報系基盤システムの開発は2016年1月から開始されました。新しい仕組みは、Bluemix Infrastructure環境のTrade Agent上に投資情報系基盤を構築し、そこから新たに開発された「スマ株」「HS Trader II」「HS Trader Premium II」の3種類のツールに情報を提供するというものです。スマ株は従来のものを全面的に刷新し、より操作性に優れた使いやすいツールに生まれ変わりました。

「PC向けのツールでは多くの情報を配信するという考え方が基本になりますがスマートフォン向けに情報を配信する場合、画面のサイズに配慮して情報の見せ方を工夫する必要があります。従って収集した情報をそのまま提示するのではなく、必要な情報を見やすい形で提示するように工夫しました。また取引の種類も増え、従来の現物取引と信用取引の2種類に加え、新たに先物取引とオプション取引にも対応するようになりました」(十文字氏)。

HS Trader Premium IIは従来のスマ株 for PCに代わるツールとして新たに開発されたPC向けの高機能トレーディング・ツールです。

「HS Trader Premium IIはデイトレーダー向けのツールとして開発されたソフトウェアで、豊富な情報を参照しながら直感的に発注できるように配慮されています」(三根氏)。

HS Trader IIは情報提供に特化したツールで、豊富な情報をWebブラウザからアクセスできる上、取引用の画面を呼び出すことも可能です。これら3種類のツールは連動して活用することができ、例えばスマ株で登録した銘柄リストはWeb上で管理されるため、HS Trader IIと自動的に同期されます。またHS Trader Premium II上で登録された銘柄をWeb管理リストに反映することも可能です。

こうして各種ツールの開発が進められ、4月に事前のテストのためにBluemix Infrastructureを契約。確認が終わった段階で一旦契約を停止し、6月からクラウド環境での本格的な動作確認を実施するために、再度Bluemix Infrastructureの活用が開始されました。このように必要な期間だけクラウド環境を利用することでコストを最小限に抑えることが可能になります。その後順調に作業が進み同年9月に予定通り完成。10月2日に3種類の新しい情報提供ツールがリリースされました。

「リリースから2カ月ほど経過していますが、お客様から高評価をいただいています。従

“これまではスマートフォンを使うお客様がメインの対象となっていました、PC向けのツールが充実したことで、今後はPCを使ってアクティブに取引を展開されるお客様が増えることを期待しています。”



エイチ・エス証券株式会社
オンライン営業部
オンライントレード課
課長代理

三根 正大 氏

“Trade Agentはオープン・イノベーションプラットフォームとしてクラウド上に展開された投資情報系基盤を利用し、お客様が望まれる独自性のある情報、コンテンツを提供します。ミッション・クリティカルでありながら柔軟性が必要な当社ビジネスにおいてエンタープライズ向けのクラウドであるBluemix Infrastructureは最適です。”



株式会社トレードワークス
サービスエンジニアリング部
スペシャリストグループ
取締役統括本部長

徳島 直哉 氏

“Bluemix Infrastructureであれば、Direct Link Colocationで接続することにより構内配線と同等に帯域保証ができるため、低遅延で通信することが可能になります。”



株式会社トレードワークス
システム開発部
クラウドサービス
基盤技術チーフエンジニア

二宮 慎 氏

来活用していた情報ベンダーのツールは有料で提供していたため、利用されるお客様が少なかったのですが、HS Trader Premium IIは無料で配布されている点が喜ばれているでしょう。またスマ株についてもパフォーマンス面でも改善されていますので、より使いやすくなっていると思います」(林氏)。

これらの新しいツールを生かして、エイチ・エス証券は新しい顧客を開拓することを目指しています。

「これまではスマートフォンを使うお客様がメインの対象となっていました、PC向けのツールが充実したことで、今後はPCを使ってアクティブに取引を展開されるお客様が増えることを期待しています」(三根氏)。

顧客ニーズに応えるために今後もさらなる改善を計画

エイチ・エス証券では今後もスマ株などのツールの改善を進めていく予定です。

「今回のリニューアルで取引部分を強化しましたが、まだまだ必要な機能が充足していません。今後はそうした部分を補強しつつ、お客様からのご要望に耳を傾け、さらに使いやすいツールに磨き上げていきたいと思っています。例えば、FinTechのさらなる活用、あるいは海外の株式情報提供や取引機能の追加などが考えられます」(林氏)。

最後に岡和田氏はこれらの新しいツールをいかに顧客の満足度に反映できるかが重要だと強調します。

「エイチ・エス証券では『簡単、便利』をキーワードとしてサービス提供の在り方を考えてきました。これまでもスマートフォンを活用されるお客様に対して分かりやすく使いやすいものを開発してきましたが、今回のリニューアルではアクティブなユーザーを意識して操作性という点も重視しました。情報量も機能もより充実したのですが、それらが本当にお客様の役に立っているかという観点では不明な部分もあります。つまり、豊富な機能やFinTechなどの新しい技術の利便性を的確にお客様にお伝えし、実感していただけるかが重要だということです。そうした部分をしっかりとフォローすることで本当にお客様に満足していただけるサービスの提供を目指していきたいと考えています」

エイチ・エス証券は、最先端の技術と情報を有効に活用し、より質の高いサービス提供を目指していきます。

IBMクラウドおよび Bluemix Infrastructure についての詳細情報は下記の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/cloud-computing/jp/ja/

トレードワークス Trade Agent についての詳細情報は下記の Web サイトをご覧ください。

<http://www.tworks.co.jp/>



©Copyright IBM Japan, Ltd. 2017

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町 19-21

Printed in Japan

February 2017

All Rights Reserved

このカタログの情報は2017年1月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。ビジネス・パートナーのソリューションの詳細な内容は、ソリューションを提供するビジネス・パートナーにお問い合わせください。IBM、IBMロゴ、ibm.comおよびBluemixは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBM商標リストについては www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。